令和２年度　呉羽高等学校アクションプラン　－５－

重点項目	特別活動（図書館活動の充実）	
重点課題	・読書指導を通して生徒の自主的な読書活動を推進し、豊かな知性と感性を育む。 ・「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の強化を図り、生徒の利用を促進する。 ・本校の特色にあわせた蔵書、資料の構成を目指した図書館運営を目指す。	
現　　状	・読書傾向調査によると、読書が「好き・どちらかといえば好き」な生徒は７０％程度いるものの、１週間の読書時間が０分と答える生徒が４４％を占める。読書をしない理由として、「読書の習慣がない」約４０％、「勉強・部活等で時間がない」約４０％となっている。すきまの時間を利用して読書をする習慣が身についていない状態である。 ・図書館を年１０回以上利用する生徒の割合が１０％程度であるが、４０回以上利用している生徒もおり利用状況に個人差がある。日常的に図書館を利用し、図書資料を適切に活用する態度が求められる。 ・スマホやパソコン等を用いた電子書籍の読書者数の割合は２５％、その利用者の年間平均読書冊数は１１．２冊（H30年度8.3冊、H29年度3.4冊）と年々増加しており、電子書籍が読書の形態として浸透してきている。 ・読書活動の利用に加え、生徒の心の居場所として図書館のより一層の活用が望まれる。 ※数値はR2.1.22実施「読書傾向調査」（1･2年対象）による。	
達成目標	①年間の読書冊数３冊以上の生徒の割合	②１ヶ月平均の図書館入館者数（延べ人数）
	８０％以上	５５０人以上
方　　策	・「社会を知るための読書」をテーマとして１・２学年を対象に「読書の時間」を実施する。 ・１・２学年を対象に「ホームルーム読書会」でビブリオバトルを年１回実施し、生徒自身が選んだ本の良さを聞き手に伝える工夫をすることで読書へのきっかけとする。 ・進路や職業選択に役立つ図書資料の充実に努める。 ・全学年を対象に「小論文対策図書案内」を作成し、進路対策の支援を図る。 ・読書感想文・感想画コンクールを実施する。 ・図書委員会で「テーマ展示」「教養講座」や「図書館フェア」を企画・実施し、調査研究の成果や関連する図書を紹介する。 ・「図書館だより」を年５回程度発行し、推薦図書や学習関連図書などを紹介し、利用の促進を図る。 ・図書委員会で本紹介ＰＯＰの作成、展示を行い、読書の楽しさが体験できる場を設定する。 ・新着図書やテーマ展示の関連図書が生徒の目に入りやすいように展示方法を工夫する。 ・新入生を対象として「図書館オリエンテーション」を実施し、図書館利用の方法や図書資料の探し方について把握させる。	・読書や探究活動等多様な活動に応えるために蔵書の充実と資料収集に努め、生徒の自主的な読書活動を推進する。 ・各教科・学年・各分掌・部活動との連携を強化し、積極的な図書館の利用を推進する。 ・教科学習や総合的な探究の時間における図書館の計画的利用の促進とレファレンスサービスを充実させる。 ・図書委員会による各行事において様々な図書を紹介するにより、図書館利用への関心・理解を深める。 ・配架を工夫するなど環境整備に努め、居心地のよい図書館とする。 ・新聞、雑誌、視聴覚資料等図書以外の資料に触れる機会を持てるように環境を整備する。 ・新着図書、推薦図書等についての情報を伝える工夫をし、本に関する関心を高めるようにする。 ・音楽等芸術関係の豊富な資料のＰＲに努め、活用の促進を図る。
達成度	①６８％（「読書傾向調査」R3.1.20 実施による）	②月平均６０３人（1月末現在）
具体的な取り組み状況	・1年生は7月･11月･12月に2年生は11月に「社会を知る」をテーマに「読書の時間」を実施した。幅広い分野から選定した約50冊の新書の中から選択し読む時間、各自が選んだ本を読む時間を設定し、読後の感想をまとめた。 ・校内読書感想文・校内感想画コンクールを実施し、読後に感想を表現する機会をつくった。 ・「図書館フェア」ではテーマを設定し調査したことをまとめ展示発表し、クイズ形式や関連する本をポップ等で紹介し、本に親しむ機会を提供した。 ・図書館誌「わかば」を発行し、図書委員会の活動報告として各行事の紹介や図書館の資料を活用して調査研究した成果、読書感想文・感想画を掲載した。 ・「読書傾向調査」を実施し、本校生の読書に関する現状把握に努めた。 ・「図書館だより」を毎月発行し、先生方による本の紹介や図書委員のお薦めの本を掲載し、本への関心を高めるようにした。 ・「新着案内」の発行や新着本専用可動式棚に展示し、新しい情報の提供に努めた。	・1年生に図書館オリエンテーションを実施して、図書館の利用の仕方について周知した。 ・「教養講座」では、専門的な話を聞くことで、知的好奇心を喚起する機会となった。参加生徒は、自分の能力を高める努力し、力を発揮していきたいと感想を述べていた。併せて図書館で講座の内容に関連する本を準備し、展示した。図書委員は、広報活動、進行等講座の運営を行った。 ・「図書館フェア」はテーマを「偉大なる文豪たちの生き様」とし、作品の紹介や文豪についてのエピソードなどを交えてまとめ展示し、関連する本を紹介した。クイズラリーも企画し、多くの生徒が参加した。 ・教科（芸術等）、総合的学習の時間・総合的な探究の時間（国語・家庭等）の授業で図書館及び図書館資料が活用された。 ・「読書の時間」を図書館で実施し、読みたい本を探し、借りて読むことで図書館に親しむ機会とした。
評　　価	①　Ｄ：目標値を昨年度から10％引き上げたが、実績は79％から68％に低下した。 ②　Ａ：達成した。授業、行事等での利用者数が昨年より増えた。（昨年度月平均５４４人）	
学校評議委員の意見	①現実的な目標かもしれないが、伸びる可能性があるはず。生徒が自分の読んだ本を他の生徒に紹介する機会を効果的に利用すればよいのでは。芸術関連図書について生徒に希望調査してはどうか。 ②読書指導を進めた結果、図書館利用に効果があらわれている。	
次年度に向けての課題	・図書委員会の活動を通して全校生徒が本に親しむ機会を増やす。 ・教科学習や「総合的な探究の時間」における図書館の計画的利用の促進とレファレンスサービスの充実。	

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）